



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員
は会費に含まれる

発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師
上ル七観音町637
インターワンプレイス烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 花山 弘



特集・京都を知ろう (2面)
会員投稿 (1~4面)

ご用命はアミスまで

- ◆ 医師賠償責任保険
 - ◆ 休業補償制度 (所得補償、傷害疾病保険)
 - ◆ 針刺し事故等補償プラン
 - ◆ 自動車保険・火災保険
- ☎ 075-212-0303



残暑お見舞申し上げます

2022年 夏
京都府保険医協会 役員・事務局一同



朝日に燃え立つ屋久島縄文杉

写真・文 関 浩 (宇治久世)

終日降雨の中、宮之浦岳1936mを経て、キャンプ場・新高塚小屋1460m泊。早朝4時出発、6時頃縄文杉に着く。標高1330m、樹高25.3m、胸高周囲16.4m、大人10人が手をつなぎ巡ってまだ余るといふ。推定樹齢2170年以上。朝日を浴びる10数分の時間は季節、天候、太陽の位置により左右される。

枕草子を読んで

遠藤 裕 (北)

以前より書棚に置いてある「枕草子、清少納言」を初めて手にしました。女身に今すぐなりたいものだと感じられた。

◇ (現代語訳記載) うらやま 現在進行形の清少納言が感じられるもの(第152段) じられます。

◇ うらやまに見えぬもの。 御前にて人々とも(第259段)

た時に、中の御社にさしかかるあたりで、わたし自身はむやみに苦しいのを我慢して坂を登ったのだが、少しも苦しそうな様子もなく、後から来る「見える人たちがごんごん行つて先に立つて参詣するのは、とてもすばらしい。二月の丑の日(例祭の日)の暁に家を出て急いだけれど、坂の半分くらいを歩いたところ、そこで日の時(午前10時頃)くらいになってしまった。だんだん暑くなって、やりきれない感じがし、どつしてこんな暑い日ではなく、ちょうどよい日もあるのに、なんだって参詣したのだらう、と涙もこぼれて、そこで一息入れてぐつたりしていると、四十歳くらいの女で、ただ着物の裾をたくしあげただけのかっこうなのが、「わたしは七度詣(1日のうちに三社を七度詣でる)をいたすのですよ。三度はもう参詣してしまいましたが、もうあと四度は何でもない。また末の時(午後2時頃)にきつと下山するつもり」と、道で出会った人になちよつと言つて坂をおりて行つたのは、普通どころでは目にもとまるはずのない些細なことだが、この時はこの

中宮様御前で、女房たちと話したり、また中宮様がお話をなさるついでなどにも、「世の中が腹立たしくて、もうしばらくの間でも生きていられそうにない気持ちが行つて、どこへでもいから行つてしまいたいと思う時に、普通の紙のとても白くてきれいなのが、上等の筆、白い色紙、みちのくに紙などを手に入れると、もう気持ちがすっきりして、まよふ、こうしてでもしばらく生きていてもよさそうだと感じられます。また、高麗縁の畳の筵で、青くこまかに厚く編みこんだものが、縁の紋がくっきりと黒く白く見えているのをひききうけて見ると、どつしてこうしてやはり決つてこの世は思ひ捨てることができそうにない」と、命まで惜しくなりまして申し上げると、中宮様がひどくちよつとしたことと、気が持たなくなさめられるよつね。そんな簡単になくなさめられるのなう...

◇ 明るい清少納言です。この二段で何か元気をもらいました。



アートスタイル

辻 俊明 (西陣)



美術を鑑賞する時、美術館の建物や周囲の環境も大切な鑑賞の対象となる。美術館は豊かな自然の中にあるのがいい、かつ建物も周りの景色に溶け込んでいるのがいい。コンクリートとアスファルトに囲まれただけの大都会の美術館へは少し行くのがためらわれる。その点、京都の美術館の多くは山紫水明を感じられるところにあるのいい。美術鑑賞の日、朝、家を出てから乗り物、道のり、周りの風景に至るまですべてはアートになる。

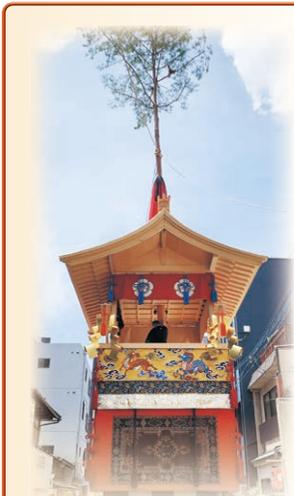
左京区、哲学の道の近く、緑多いところにある泉屋博古館という小さな美術館は、世界的にもあまり類のない中国古代青銅器の美のためだけに作られた。ひとたび足を踏み入れたなら3000年前の中国へタイムトラベルすることに。売店やカフェなど余分なものは一切なく、そのかわり比叡山から大文字山へと連なる東山が見事な借景として青々しい中庭に取り入れられている。人の少ない平日には京都で最もほっこりできる美術館となる。最寄りのバス停は鹿ヶ谷通にある宮ノ前町。帰りのバスを待つ間、目の前は大文字山に連なる東山がさらに間近に、稜線の木々の枝まではつきり見える。ここは京都で最も景色のいいバス停

刻家が大理石を素材に芸術を創造するように、日々の出来事を素材に芸術を創造すればいい。そうすれば日常はアートになり非日常になる。芸術にするには日々の出来事に美を追加するのがある。美の中心は寛容、愛、情熱、思いやり、強さなど、人それぞれ、何でもいい。このようにして美が追加された時、今まで何の変哲もなかった日々の出来事は宝石のきらめきが変わる。同時に陳腐な価値観は終わりを告げる。ここでは成功か失敗かではなく、正しいか正しくないかでもなく、美しいか美しくないかが価値の基準になる。すべての出来事は美しいか美しくないかで判断される。新しい価値観の下では、そこに美があれば、結果のいかんにかかわらず、それは成功であり正しいのである。



泉屋博古館の中庭

196年ぶりの復活「鷹山」



疫病退散の願いを込めて

特集

出版編集委員によるご当地紹介

出版編集委員が、地元地区を紹介する企画。第1弾は、吉村陽委員の地元、相楽地区を案内する。辻俊明委員(西陣)、宇田憲司委員(宇治久世)も同行した。

恭仁京跡(山城国分寺跡)

聖武天皇は740年10月、平城京を離れ、伊賀・伊勢・美濃・近江などを幸して、同年12月、恭仁宮(現、木津川市加茂町)に入り遷都を宣言しました。都としては5年と短く、謎も多いことから「幻の都」と呼ばれています。1957年7月に国の史跡に指定され、2007年2月には史跡名称が「恭仁宮跡(山城国分寺跡)」となりました。



木津川市立恭仁小学校

恭仁京跡敷地内にある公立の小学校です。最近あまり見ない木造2階建ての校舎で、校舎内には職員室の鐘・木製窓とネジ締め鍵・板張りの廊下・階段など、建築された昭和11年当時の様子がそのまま残っているそうです。



大井手用水路

約800年前に作られた用水路が今も現役で使われています。1222年、海住山寺の慈心上人が和東川から水を引き、10数年かけて約7kmの大農業用水路(大井手用水路)を造ったそうです。1953年、南山城大水害で一部損壊したものの、基本的な仕組みは変わることなく、大切な農業用水路だそうです。



医療機関

笠置町には伊佐治医院(左上)、南山城村には竹澤内科小児科医院(右上)と、それぞれ医療機関は1軒です。和東町には三つの医療機関がありますが、柳沢活道ヶ丘診療所(右下)に寄り、柳沢衛先生とお会いしました。お土産までありがとうございます!

加茂町の吉村医院(左下)でも記念撮影。



和東茶(お土産)



海住山寺

海住山の中腹、幽邃の地に海住山寺が創建されたのは、735年のことと伝えられています。現存の五重塔は、1214年に建てられたもので、特に心柱が初層で止められている点は建築史上有名。国宝に指定されています。



木津川



我が家のペット ベア君の恩返し

調 幸治(亀岡)



大型犬グレートピレニーズの「ベア君」です。グレートピレニーズはフランスのピレネー山脈の羊のガードとして、また王宮の護衛犬として育てられた犬です。白熊に似ているので「ベア」と名付けたのです。



成犬になるとこんな立派に

2003年に京都三条河原町に犬屋さんがあったのですが、その頃チワワなど小型犬が大人気な時代でした。ゲージの中でじっと飼い主を待っていたのですが、半年近くたって購入されずゲージが窮屈になり店長さんに



子犬の頃のベア君

好かれていたのですが、畳1枚分のスペースしかなく、体重50kgとなり亀岡南つじヶ丘の山が付属した貴重な住居を見つけたベア君も喜ぶと思い、無理を押し購入し、そこで警備犬として飼っていたのです。

書を与えずにすみません。建物も25年以上経過し、その間地震、水漏れ等、さまざまな要因で構造物が腐蝕していたためだと思われました。突然のことでした。

私の散策記

皇子達の運命

—二上山を参詣して

宇田 憲司(宇治久世)

二上山は、奈良県はその西部、葛城市にあり、大阪府は太子町との境界部に位置している。北側は標高517mの雄岳と、その南側には馬の背を経て標高474mの雌岳へと続く。二神山と記書される場合もあるが、神の名は知らない。雄岳山頂の間際には、天武天皇の三男、大津皇子の墓所がある



二人で大津皇子墓所前にて

おじさん(永遠の鉄道マン)がいられて次の列車が来るまで楽しい昔話を話してくださいます。漂う煙と芳しいにおいで迎えられました。これは売店の焼き鳥が名物なのです(美味)。

および民事事件となり大変なことになっていたのではないかと思えます。私を守ってくれたベア君も、15年幸せに生きてくれて静かに息を引き取り南つじヶ丘の山に埋葬しました。すべて、ベア君のおかげだと思っています。ありがとうございます。ベア君



二上山雄岳山頂にて二人で

通常号でも
会員投稿
募集中!
テーマは何でも
結構です。

私の旅行記

木次線 トロッコ列車

「奥出雲おろち号」の鉄旅

村上 匡孝(綴喜)

奥出雲地方はヤマタノオロチ伝説で知られる神話の舞台です。出雲の国六道から備後の国備後落合まで奥出雲を縫って大気と風の中をゆくり走る列車紀行で



写真1



写真2



写真3

出雲から山陰本線をやってきたおろち号は矢道駅で方向を変えて木次線に入ります(写真1)。機関車、客車、トロッキの3面編成で、座席は客車とトロッキに同じ座席番号の席が確保されていて、外の空気を満喫してもよし、室内でゆっくり食べてもよし。停車駅ではホームの売り子さんが特色ある地元味覚を勧めてきます。木次駅ではアイ



写真4



写真6

スクリームや焼き肉弁当が名物でした。トンネルに入って真っ暗になると天井にはヤマタノオロチが明るく浮かびます(写真2)。

列車は奥出雲の村々を繋いで進みますが、出雲八代ではクリーム大福。出雲三成では仁多牛べんとう。仁成では仁多牛べんとう。仁多米(こしひかり)と仁多牛を奥出雲の名水で炊き込んだ牛肉弁当は、馳走の車内食となりました。やがて松本清張の「砂の器」で有名な亀高駅に到着します(写真3)。駅舎は扇屋そば

おやつにしました。列車はやがて明泉・延命水が湧き出る盆地、出雲坂根駅に着きます。漂う煙と芳しいにおいで迎えられました。これは売店の焼き鳥が名物なのです(美味)。

さあ出発進行。これから鉄つちゃんお待ちかねの三段式スイッチバックで山の斜面を登ります。2力所(2回)運転士が前から後ろに車内を移動して進行方向を前に後ろに変えていく。ドラマがありました。

終着駅の備後落合がたまりません。出雲(木次)からの木次線が広島と新見を結ぶ芸備線と繋がるこの駅(写真4)は、かつては蒸機の休息と入れ替え、物資の集散、流通基地でした。名物

ローカル鉄道の汽車旅。限りある浪漫と風情、溢れる旅情。乗るなら今のうちです。(2020年9月完乗)

近傍の白鹿荘に1月2日から泊宿をとり、3日二上山に登攀した。ほぼ予定通り、妻と次女との3人で、近鉄南大阪線の二上山駅で下車して上ノ池横登山口から雄岳に向かって皇子の墓所へと参詣し、雌岳にも立ち寄りその中間は馬の背から祐泉寺に降り、皇子の元の墓所とされる鳥谷口古墳に立ち寄り、傘堂を見て、當麻寺を参拝のうえ當麻寺中之坊の庭園を散策して、帰宿することになった。

このコースを考えたのは、母校を卒業した頃、NHKラジオ第2放送で、「歌は音楽です。声に出して歌いましょう」の犬養節で有名な、万葉集の和歌を、メロディを付けて広めようとした万葉歌音韻学者。 (22年6月15日記)

おじさん(永遠の鉄道マン)がいられて次の列車が来るまで楽しい昔話を話してくださいます。漂う煙と芳しいにおいで迎えられました。これは売店の焼き鳥が名物なのです(美味)。

2万5千分の1地図を購入して、コピーして眺めていたが、上ノ池横登山口が標高145mなので、頂上との差は372m、道も一一般人向けハイキングコースとしてよく整備されており、ならば大したことはない。高を括っていた。6合目ルートでは、移動距離がほぼ1.8kmと短いことから、身体の高齢化による疲れも出たりしたが、意外に急斜面の登りであったからとも言えよう。また、天気もよく爽快で、登山口から墓所到着まで、5分間ずつ2.3回途中休憩を入れた1時間7分であったので、実際は大変な山登りであったはずである。大いにお勧めできるコースである。 (22年6月15日記)

私の趣味

彫刻家をめざして

太田 太 (綴喜)



「Egypt」(W31cm×H22.5cm)



「Three holes」(W22.5cm×H35cm)

私は以前より、彫刻家をめざしてきたが、最近やっと、自分のスタイルで作品を作れるようになった。

目標は真ちゅうの立体作品だが、今は主に朴板6mm彫り込んで、ペンキで着色したレリーフと、一般の陶芸教室で立体作品を作っている。

レリーフは我流で、他の人の作品と異なるので、額縁店の人に驚かれる。陶芸はいろいろの陶芸教室に行くが、勝手に作品を作るので教室の担当者に抵抗を示される場合も多い。しかし、初めから協力的な、あるいはやっつけているうちに理解してもらえる場合もある。

2年前から、生駒の彫刻家に招待されて、秋祭りにギャラリー1月の庭で作品を展示させてもらっています。場所は精華町、学研都市のけいはんな記念公園内の大規模な日本式庭園の水景園内にあります。

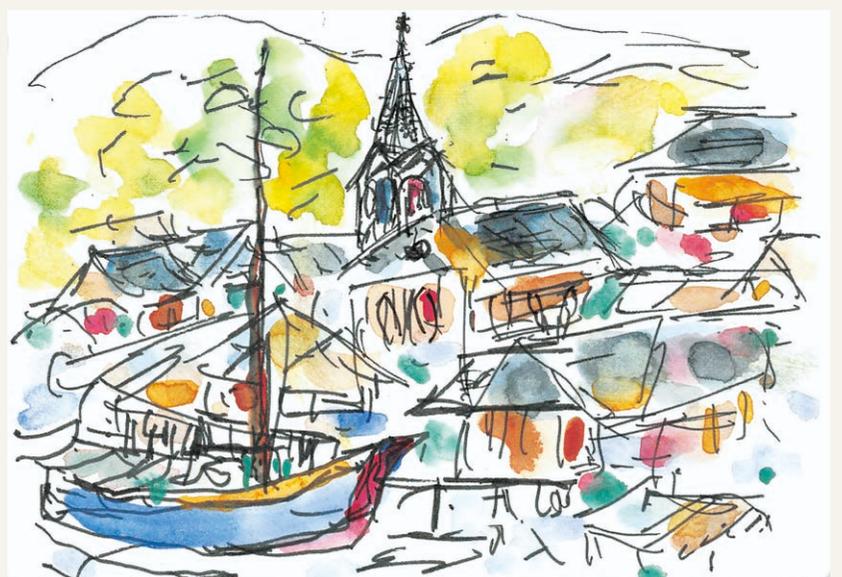
私の趣味

天草・崎津集落を旅して

八田 一郎 (左京)



「崎津集落(1)」(絵葉書スケッチブック)



「崎津集落(2)」(絵葉書スケッチブック)

まん延防止措置が解除になるのを待ちわびて、22年4月4日から7泊の熊本・天草を旅してきました。目的は世界文化遺産の潜伏キリシタンの里の一つ、天草の崎津集落です。小さな漁村を守るように教会がすっと立っている姿をテレビの番組で何回か見て、ぜひここでスケッチがしたくなりました。

天草は南北に上天草と下天草とからなり、北側は島原湾に面し、天気が良く下天草の本渡から雲仙普賢岳と噴煙が見えました。一方、崎津は下天草の南西の端、辺鄙なところですが、近くの牛深からは鹿児島県までフェリーで30分、下天草の人々の生活圏は熊本よりは長崎、鹿児島のように感じました。熊本出身の患者さんに聞いても、「崎津は以前一度行ったことがあり、ほっとするいいところでした」

「が、遠いですね」と言われます。1日目は天草市直営の観光バスを利用。地元のガイドさんが「天草弁」で面白おかしく説明してくれました。まん延防止措置解除間もなくで乗客は少なく6人だけ、和気あいあいの観光です。バスが羊角湾に差し掛かると対岸の崎津の漁村と教会が姿をあらわします。久しく待っていた光景にみんな大歓声、シャッターバチバチ。「潜伏キリシタン」が世界文化遺産に登録されたからコロナ前までは、狭い崎津集落は芋の子を洗うような混雑ぶりだったそうです。が、今はそのよう。私たちのバス観光客のほかには、ほんのりな混雑ぶりだったそうです。バス観光客のほかには、ほんのりな混雑ぶりだったそうです。バス観光客のほかには、ほんのりな混雑ぶりだったそうです。

球王朝伝来の素朴なお菓子を食べました。皆が集まってきて、店のおばさんもガイドさんともみんなでワイワイ、同窓会のようにでした。見送られながら下田温泉で下車、ここに2泊しました。肌に柔らかな旅の疲れをいやしてくれる温泉でした。

翌日は独りレンタサイクルで崎津をまわり、あちこち路地をスケッチ、午後からは漁船をチャーターして船上から漁村と教会のたたずまいを眺めました。テレビで見た、漁の行き帰りに漁師さんが航行の安全と豊漁を祈願するというマリア像も近くで眺めることができました。スケッチもいっぱいできて、心の洗われるすがすがしい旅でした。本当に久しぶりの長旅でした。また方々遠くをぶらつきたい!